

## 別紙様式 1

### 令和 4 年度呉中央中学校区研究推進計画

校番 (13) ( 呉中央中 ) 学校

校長名 坂田 恭一

- 1 学校教育目標  
自分を育てる
- 2 目指す児童生徒像  
生涯を自ら豊かに学び続け、自他のいのちを大切にして主体的に生ききる児童生徒
- 3 育成を目指す資質・能力 ( 具体の姿 )

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等		学びに向かう力, 人間性等
		思考力	表現力	主体性
後期	様々な場面で活用することができる知識・技能を身に付けている。	課題解決に向けて, 収集した情報を抽象化したり, 構造化したりして, 解決策(新たな価値)を考えることができる。	発展させた自分の考えや集団の考えを, 状況に応じて, 適切に表現したり, 伝え合ったりすることができる。	課題解決に向けて, 自分で目標を見だし, 協働して取り組み, 様々な場面で実践することができる。
中期	学習過程において活用することができる知識・技能を身に付けている。	課題解決に向けて, 情報を多面的・多角的に見たり, 根拠を基に理由付けしたりして, 解決策を考えることができる。	自分の考えや集団の考えを, 目的や相手によって, 効果的に表現したり, 伝え合ったりすることができる。	課題解決に向けて, 自分の考えを明確にもち, 協働して取り組むことができる。
前期	学習に必要な基礎的, 基本的な知識・技能を身に付けている。	課題解決に向けて, 事象を比較したり, 分類したり, 関連付けたりして, 解決策を考えることができる。	自分の考えを, 分かりやすく表現したり, 伝え合ったりすることができる。	課題解決に向けて, 興味をもって, 自分から取り組むことができる。

- 4 研究主題等
  - (1) 研究主題

深い学びを実現する授業の創造

－探究的に学ぶことができる生活科・総合的な学習の時間を通して－

- (2) 設定理由 ( 校区の児童生徒の課題分析等 )

本学園は, 「自分を育てる」を学校教育目標とし, 「生涯を自ら豊かに学び続け, 自他のいのちを大切にして主体的に生ききるねっこ」を児童生徒に育成することを目指して, 豊かな「学び」と豊かな「生き方」を基盤とした教育活動を展開している。

本校では, この学園構想のもと, 児童生徒に育成すべき資質・能力を「知識・技能」「思考力」「表現力」「主体性」の4つに設定し, 研究主題を「深い学びを実現する授業の創造－探究的に学ぶことができる生活科・総合的な学習の時間を通して－」として, 研究を進めてきた。具体的には, 生活科は「気付きの質が高まる学習過程」, 総合的な学習の時間は「探究的な見方・考え方を働かせる学習過程」をその研究内容として取り組んできた。

生活科では, 子供たちの「気付き」を生み出す授業の組み立てやワークシートの工夫を行うことにより「気付きの」視点が広がり, 学びにつながっていったと考える。

児童の意識調査の結果は、以下の通りである。

資質・能力	質問項目	肯定的回答 (%)
思考力	生活科では比べたり、仲間分けしたり、つなげたりして考えている	92.6
表現力	生活科では自分の考えを分かりやすく表したり、伝え合ったりしている	94.3
主体性	生活科では興味をもって自分から取り組んでいる	97.7

また、教職員意識調査では

思考錯誤や繰り返す活動の設定をしたか・・・100% (昨年度 75%)

伝え合い交流する場の工夫をしたか・・・85.7% (昨年度 41.6%)

児童の気付きの質が高まったか・・・100% (昨年度 61.6%)

となっており、昨年度と比較すると肯定的評価が大幅に増加している。これは、昨年度と同様にコロナ禍ではあるものの、感染症対策を講じながら状況に応じて様々な活動を工夫して行った成果と言える。しかし、一方で気付きの質の高まりについては、教員の認識にも大きな差があると言える。次年度は、児童の具体的に姿から試行錯誤する様子や気付きの質の高まりを見取り、教師同士が共有しながら指導を行っていく必要がある。

総合的な学習の時間については、昨年度修正を行った単元構想及び年間指導計画を基に、各学年で取り組んだ。活動に制限がある中でも、児童生徒の興味関心や置かれた状況に応じて、学習活動の工夫を行うことにより、児童生徒が主体的に学習に取り組む姿が様々な場面で見られた。

児童生徒の意識調査の結果は、以下の通りである。

資質・能力	質問項目	肯定的回答 (%)
思考力	総合的な学習の時間では情報をもとにいろいろな視点から考えたり理由付けしたりして解決策を考えている	93.4
表現力	総合的な学習の時間では自分やグループの考えを目的や相手を意識して表現したり伝え合ったりしている。	91.2
主体性	総合的な学習の時間では課題解決に向けて自分の考えを明確にもって取り組んでいる	91.1

また、教職員意識調査では

課題設定場面において、出会わせ方の工夫・・・95.7% (昨年度 72.2%)

児童生徒の探究的な見方・考え方を働かせた課題解決・・・91.3% (昨年度 66.7%)

児童生徒の考えや課題が新たに更新され、探究の過程の過程が繰り返される単元構成  
・・・91.3% (昨年度 66.7%)

となっており、今年度の教職員意識調査では、すべての項目において昨年度よりも肯定的回答の割合が増加しており、教職員が高い意識をもって実践していることが分かる。これは、課題設定から探究的な学習になるよう学習過程を意識し、単元構想を見直して指導した成果であると考えられる。

今年度は、児童生徒の変容から取組を検証し、より高いレベルでの深い学びを目指していく必要がある。そして、児童生徒がより探究的に課題解決に取り組み、思考を深めていくことができる授業を実現することで、学園で目指す資質・能力を育成していきたい。

### (3) 研究仮説

児童生徒が探究的に学ぶことができる生活科・総合的な学習の時間を行えば、深い学びを実現し、学園で目指す資質・能力を育成することができるであろう。

## 5 研究内容

### 【生活科】

#### ○ 気付きの質が高まる学習過程

(①思いや願いをもつ ②活動や体験をする ③感じる・考える ④表現する・行為する)

- ・ 試行錯誤や繰り返す活動の設定
- ・ 伝え合い交流する場の工夫
- ・ 振り返り表現する機会の設定
- ・ 児童の多様性を生かし、学びをより豊かにする工夫

### 【総合的な学習の時間】

#### ○ 探究的な見方・考え方を働かせる学習過程

(①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現)

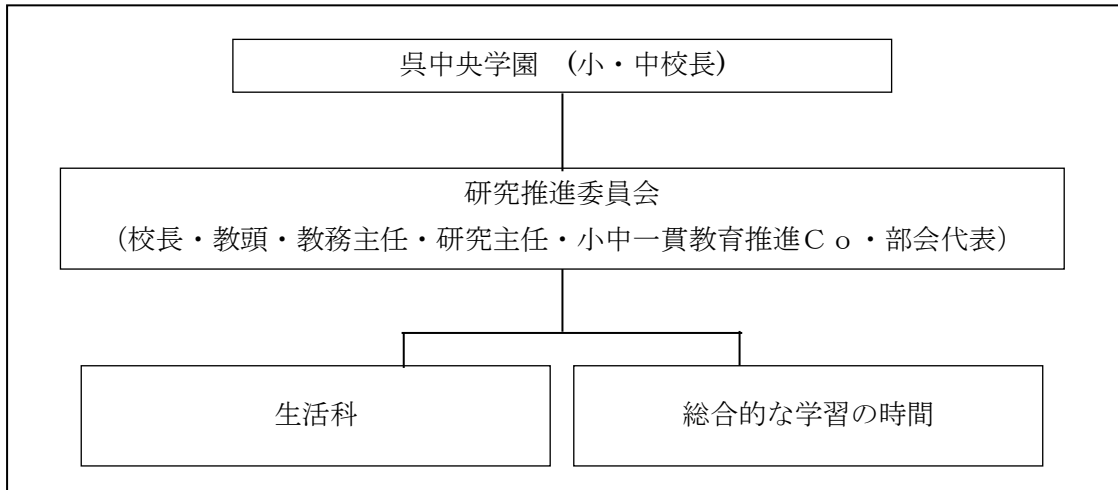
- ・ 出会わせ方の工夫 (課題設定)
- ・ 目的を明確にした情報収集 (情報収集)
- ・ 「考えるための技法」を用いた思考を可視化する思考ツールの活用 (整理・分析)
- ・ 明確な相手意識・目的意識 (まとめ・表現)

## 6 検証について

	検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
生活科	① 児童に新たな気付きが生まれ、質的な高まりが見られる授業になっていたか。	授業評価票	研究授業における教職員の相互評価における肯定的評価	—	85%以上
		教職員意識調査	教職員の肯定的評価	100%	85%以上
	② 資質・能力を育成することができたか。	児童意識調査	児童生徒の肯定的評価	—	85%以上
	③ 児童の気付きの質を高め、いくことができる学習過程が展開されていたか。	教職員意識調査	教職員の肯定的評価	—	85%以上
総合的な学習の時間	① 探究的な見方・考え方を働かせながら、深い学びにつながる授業になっていたか。	授業評価票	研究授業における教職員の相互評価における肯定的評価	—	85%以上
		教職員意識調査	教職員の肯定的評価	—	85%以上
	② 資質・能力を育成することができたか。	児童生徒意識調査	児童生徒の肯定的評価	—	85%以上
	③ 児童生徒の考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される単元構成になっていたか。	教職員意識調査	教職員の肯定的評価	—	85%以上

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等 (中→小, 小→中)

(中→小)

- ・小学校第5・6学年 国語科, 算数科, 音楽科, 体育科, 外国語科

(小→中)

- ・なし

イ 小学校教科担任制等

- ・小学校 第3・4・5・6学年 (理科)
- 第5・6学年 (家庭科)
- 第3・4・6学年 (書写)

8 推進計画

月 日	内容	
	呉中央中	呉中央小
4月21日	全体研修 (本学園の研究について)	
6月13日	全体研修 (「学びの変革」に係る理論研修)	
6月28日	全体研修 (授業研究①) 指導・助言者 安田女子大学 客員教授 朝倉 淳	
7月22日		1学期の授業分析と2学期に向けて
8月22日	1学期の授業分析と2学期に向けて	
9月21日	全体研修 (授業研究②) 指導・助言者 安田女子大学 客員教授 朝倉 淳	
10月31日	全体研修 (授業研究③) 指導・助言者 安田女子大学 客員教授 朝倉 淳	
1月11日	2学期の授業分析と3学期に向けて	
1月20日	全体研修 (授業研究④) 指導・助言者 安田女子大学 客員教授 朝倉 淳	
2月7日	全体研修 (今年度の成果と課題, 来年度に向けて, 研究のまとめについて)	

9 その他

※ 研究構想図, カリキュラムマップを添付する。